

BOOK MARK PRODUCTION SYSTEM AND METHOD

Publication number: JP2002010061

Publication date: 2002-01-11

Inventor: IIDA TSUTOMU; HIRAI YASUHIRO

Applicant: FUJI COLOR SERVICE CO LTD

Classification:

- international: G06Q50/00; G06F3/12; G06Q30/00; H04N1/387;
G06Q50/00; G06F3/12; G06Q30/00; H04N1/387; (IPC1-
7): H04N1/387; G06F17/60

- European:

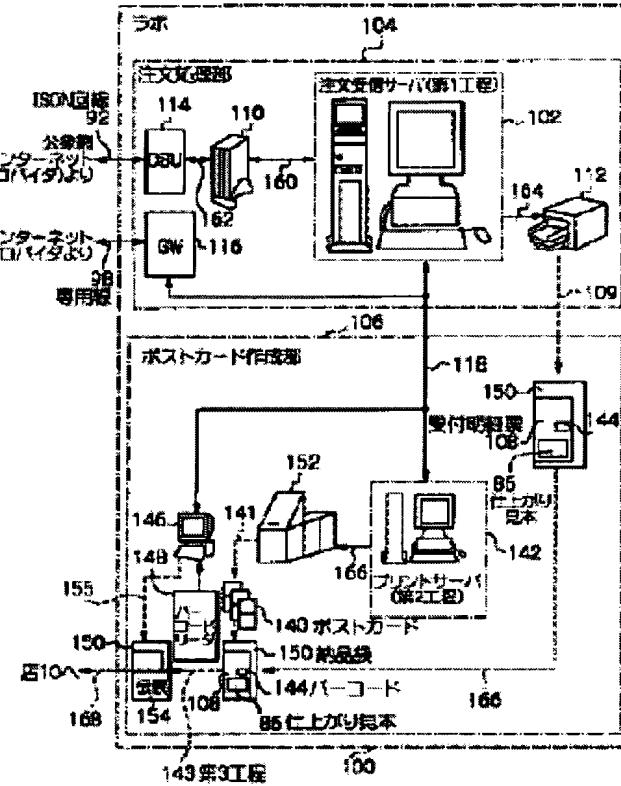
Application number: JP20000185940 20000616

Priority number(s): JP20000185940 20000616

[Report a data error here](#)

Abstract of JP2002010061

PROBLEM TO BE SOLVED: To simply and promptly produce a book mark by an office which received an order of producing the book mark from an order issuing office. **SOLUTION:** A laboratory 100 receives an order file 70 from a shop 10 via communication lines 92, 98. An order receiving server 102 in the laboratory 100 reads a template 20 as a sample of a post card which has previously been recorded based on the received order file 70 to correct it, and further a customer image 17 is synthesized to produce post card data 21. A post card 140 corresponding to the post card data 21 is printed by a printer 152 by means of a print server 142. On the other hand, a finishing sample 86 of the post card is printed by a printer 112 connected to the order receiving server 102, to be affixed to a delivery bag 150. The post card 140 is packaged with the sample 86 affixed to the delivery bag 150 as a mark to be shipped.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-10061

(P2002-10061A)

(43)公開日 平成14年1月11日(2002.1.11)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	マーク ⁸ (参考)
H 0 4 N 1/387		H 0 4 N 1/387	5 B 0 4 9
G 0 6 F 17/60	Z E C	G 0 6 F 17/60	Z E C 5 C 0 7 6
	3 0 6		3 0 6
	3 1 8		3 1 8 G
	3 3 4		3 3 4

審査請求 未請求 請求項の数 8 QL (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2000-185940(P2000-185940)

(71) 出願人 000136376

株式会社フジカラーサービス

東京都調布市柴崎1丁目67番地1

(22)出願日 平成12年6月16日(2000.6.16)

(72) 発明者 飯田 勉

東京都港区赤坂1丁目6番19号

フジカラーサービス内

(72) 発明者 平井 康弘

東京都港区赤坂1丁目

フジカラーサービス内

(74)代理人 100079991

弁理士 香取 孝雄

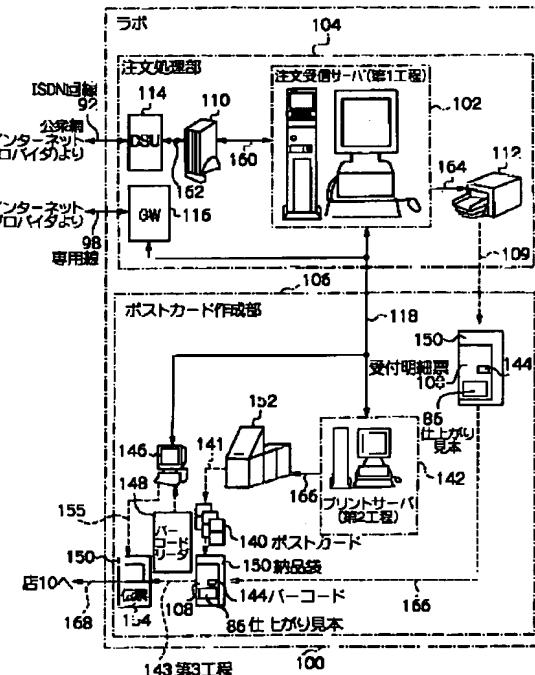
最終頁に統く

(54) 【発明の名称】 書札作成システムおよび方法

(57)【要約】

【課題】 発注所から書札作成注文を受け付けた受注所が行う書札作成を簡易かつ迅速化する。

【解決手段】 ラボ100 は、店10からの注文ファイル70 を通信回線92、98より受信する。ラボ100 内の注文受信サーバ102 は、受信した注文ファイル70に基づき、予め記録していたポストカードの見本であるテンプレート20 を読み出して修正し、さらに顧客画像17を合成してポストカードデータ21を作成する。ポストカードデータ21に対応するポストカード140 は、プリントサーバ142 により、プリンタ152 で印刷される。その一方、ポストカードの仕上がり見本86が、注文受信サーバ102 に接続されたプリンタ112 から印刷され、納品袋150 に貼り付けられる。ポストカード140 の包装は、納品袋150 に貼り付けられた見本86を目印として行われ、出荷される。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 発注所からの書札作成注文を受け付けた受注所が該注文に基づいて書札を作成する書札作成システムにおいて、
前記発注所および受注所は、それぞれ、書札の印刷内容を表す共通の基本書札データを記録した第1および第2の記録手段を含み、
前記発注所はさらに、前記基本書札データに合成すべき固有の画像を画像信号として入力する画像入力手段と、前記基本書札データの修正内容を入力する書札データ修正手段と、
前記画像信号および前記基本書札データの修正内容を1つの注文ファイルに格納する注文ファイル作成手段と、該作成された注文ファイルを通信回線を通じて前記受注所に転送する転送手段とを含み、
前記受注所はさらに、前記転送された注文ファイルに基づき、第2の記録手段に記録されている基本書札データを読み出して修正し、前記画像信号を合成して注文書札データを作成する書札データ作成手段を含むことを特徴とする書札作成システム。
【請求項2】 請求項1に記載のシステムにおいて、前記注文ファイルのうち、前記基本書札データの修正内容は、テキストデータであることを特徴とする書札作成システム。
【請求項3】 請求項1または2に記載のシステムにおいて、前記第2の記録手段は各発注所に対応した認証情報を記録し、
前記受注所はさらに、前記注文ファイルの転送を要求する発注所からの入力情報と、前記認証情報を照合し、それらが一致した場合にのみ、前記注文ファイルの転送を許可する発注所認証手段を含むことを特徴とする書札作成システム。
【請求項4】 発注所から通信回線を通じて書札作成注文を受け付けた受注所で書札を印刷し、注文ごとに分別して書札用の包装手段に収容する書札作成方法において、該受注所では、
前記書札作成注文を受信した書札データ作成手段により書札の印刷内容を表す注文書札データを作成する書札データ作成工程と、
該作成された注文書札データを出力して書札を印刷する書札印刷工程と、
該作成された注文書札データを出力して書札の仕上がり見本を印刷する見本印刷工程と、
該仕上がり見本を前記包装手段に添付する見本添付工程と、
該包装手段に添付された仕上がり見本に対応する書札を該包装手段に収容する包装工程とを含むことを特徴とする書札作成方法。
【請求項5】 請求項4に記載の方法において、前記受注所ではさらに、前記作成された注文書札データと1対

1に対応する識別情報を前記書札データ作成手段から出力して前記仕上がり見本とともに印刷し、前記包装手段に表示する識別情報表示工程と、
該表示された識別情報を読み取って前記書札データ作成手段に入力し、該識別情報に対応する注文書札データを検出する書札データ検出工程と、
該検出された注文書札データの発注所に対して書札の納品予定を知らせる納品予定通知工程とを含むことを特徴とする書札作成方法。
【請求項6】 請求項4または5に記載の方法において、該方法はさらに、前記注文書札データ作成工程に先んじて、
前記発注所および受注所に設けられた第1および第2の記録手段に、それぞれ、共通の基本書札データを記録する共通データ記録工程を含み、
前記発注所ではさらに、前記基本書札データに合成すべき固有の画像を画像信号として前記書札データ作成手段に入力する画像入力工程と、
前記基本書札データの修正内容を前記書札データ作成手段に入力する書札データ修正工程と、
前記書札データ作成手段により前記画像信号および前記基本書札データの修正内容を1つの注文ファイルに格納する注文ファイル作成工程と、
該作成された注文ファイルを前記通信回線を通じて前記受注所に転送する転送工程とを含むことを特徴とする書札作成方法。

【請求項7】 請求項6に記載の方法において、前記受注所ではさらに、前記転送された注文ファイルに基づき、第2の記録手段に記録されている基本書札データを読み出して修正し、前記画像信号を合成して前記注文書札データを作成することを特徴とする書札作成方法。

【請求項8】 請求項6または7に記載の方法において、前記注文ファイルのうち、前記基本書札データの修正内容は、テキストデータとして転送することを特徴とする書札作成方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、ポストカードなどの書札作成システムおよび方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 ポストカードなどの書札をプリントする書札プリントサービスにおいて、顧客が自ら撮影した写真や絵を書札に貼り付け、オリジナリティのある書札を作成したいとの要望がある。

【0003】 しかし、著作権で保護されている著作物を書札に含めてみだりに複製することは、著作権の侵害となる。したがって、かかる著作物入り書札の作成は、複製枚数をカウントできる設備を有する、著作権者との契約で定められた工場（ラボ）で行う必要がある。ラボで作成された書札は、再び注文を受けた店に配達される。

【0004】従来、このような、ラボでの作成が必要とされる書札の注文は、すべて書類によって行っていた。したがって、顧客の提供した写真や絵なども、書面の形でラボに送付していた。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかし、書類によって注文を受け付ける方法では、顧客は、仕上がり状態を事前に確認できないため、満足のゆく注文ができるとは言いがたく、宛名などの書札の内容の誤りを修正する機会もない。また書類に頼る方法では、迅速な納品が望まれる場面において問題となる。さらに、ラボにおいて、完成した書札を、その書札の納品先が記載された封筒などの包装手段に正しく入れる作業や、その書札用の請求伝票を同封する作業に時間がかかり、出荷の遅延の一因ともなっていた。その上、店側から納品日の問い合わせがあつた場合、特に注文の処理状況を管理する手段を設けていないため、実際に製品またはデータがどの段階にあるかを人手によって確認するという煩わしい面があつた。

【0006】本発明はこのような従来技術の欠点を解消し、ラボでの作業を容易かつ迅速にし、納品日の確認も簡便となる書札作成システムおよび方法を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は上述の課題を解決するために、発注所からの書札作成注文を受け付けた受注所が注文に基づいて書札を作成する書札作成システムにおいて、発注所および受注所は、それぞれ、書札の印刷内容を表す共通の基本書札データを記録した第1および第2の記録手段を含む。

【0008】発注所はさらに、基本書札データに合成すべき固有の画像を画像信号として入力する画像入力手段と、基本書札データの修正内容を入力する書札データ修正手段と、画像信号および基本書札データの修正内容を1つの注文ファイルに格納する注文ファイル作成手段と、作成された注文ファイルを通信回線を通じて受注所に転送する転送手段とを含む。

【0009】受注所はさらに、転送された注文ファイルに基づき、第2の記録手段に記録されている基本書札データを読み出して修正し、画像信号を合成して注文書札データを作成する書札データ作成手段を含む。

【0010】本発明によれば、発注所で作成された注文ファイルを通信回線を通じて受注所に転送する。注文ファイルのうち、基本書札データの修正内容は、テキストデータとして転送する。受注所では、注文ファイルに基づき、受注所に記録されている基本書札データを読み出して修正し、修正された基本書札データに画像信号を合成して注文書札データを作成する。注文書札データが得られると、書札および書札の仕上がり見本を印刷する。仕上がり見本は包装手段に添付し、これに対応する書札

をその包装手段に収容する。

【0011】

【発明の実施の形態】次に添付図面を参照して本発明による書札作成システムの実施例を詳細に説明する。なお、各図面において、本発明の構成に直接関係のない要素は省略する。また、同一の要素は同一の参照符号で表す。図2は本発明による書札作成システムを顧客に提供する店の構成例を示す図である。店10は複数あってよく、互いに遠隔地に離散していてよい。図2はそれら複数の店の1つを代表的に示したものである。

【0012】店10にはポストカード合成装置12が設置されている。これは、絵、文字、画像などの情報を元に、ポストカードデータ21を合成し、ポストカードの仕上がり見本86を顧客に提示する装置である。ポストカード合成装置12は、イメージスキャナ14およびカラープリンタ16に接続されている。図2ではスキャナ14およびプリンタ16は、ポストカード合成装置12と同一の筐体に収容され一体的に配置されているが、必ずしも一体的に配置する必要はない。これらは分離して配置しても、以下に述べるようなデータの授受が可能に接続されていれば、本発明の実施例として十分だからである。イメージスキャナ14は顧客の持参した写真や絵などの原稿15を読み取ってデジタル画像データ（以下「顧客画像」と称する）に変換し、ポストカード合成装置12に入力する装置である。プリンタ16は顧客用および店用の控え88、89をプリントする装置であり、各控え88、89にはポストカード合成装置12で合成されたポストカードの仕上がり見本86が含まれる。

【0013】図3はポストカード合成装置12の実施例の機能ブロック図である。ポストカード合成装置12として、例えば、パーソナルコンピュータを利用できる。ポストカード合成装置12は、前述のように、イメージスキャナ14または記録媒体18からデジタル画像信号を読み込み、予め保持していたテンプレート20に画像を合成する装置である。補助記憶装置（メディアドライブ）22は、顧客の持参した記録媒体18を読み出す装置である。顧客が持ち込むものがデータ記録媒体18であれば、補助記憶装置22から読み込みを行い、顧客が持ち込むものが原稿15であれば、イメージスキャナ14から読み込みを行う。

【0014】図3には補助記憶装置22は1つしか示していないが、異なる種類のものを複数設けてよい。例えばPCカードリーダやフロッピー（登録商標）ディスクドライブを併設してよい。それらに対応して、読み出し可能な記録媒体18は、フロッピーディスク、スマートメディア、メモリースティック、CD-ROM（Compact Disc Read-Only Memory）などにすることができる。図3では補助記憶装置22はポストカード合成装置12と一体的に設けられているが、外付の記憶装置として分離して設けてもよく、また、増設可能であることは言うまでもない。

【0015】ポストカード合成装置12はメモリ24を有し、これは、補助記憶装置22に信号線28を介して接続され、記録媒体18から読み出された顧客画像信号17を記録する装置である。この他、メモリ24は、スキャナ14から読み込まれた顧客画像17をも、後述のCPU(Central Processing Unit)26を経由して記録可能である。

【0016】ハードディスク(以下HDDと略称する)32は書き換え可能な記録装置である。書き換え可能な記録装置であれば、磁気方式または光方式などのいかなる方式のものを用いててもよい。HDD32には予め、各種のテンプレート20が記録されていて、図3に示すテンプレート20は、そのうちの1つを代表的に示したものである。テンプレート20は、ポストカードの見本である。すなわち、ポストカードの絵柄となる背景画像34および著作物画像36と、ポストカード中の文字情報38と、それらの要素34、36、38のレイアウト情報40とを含む。背景画像34および著作物画像36は画像データであり、文字情報38およびレイアウト情報40はテキストデータである。

【0017】レイアウト情報40は、データ34、36、38のポストカード上の配置や大きさを定める情報であり、所定の書式によって記述することができる。本実施例では独自に開発した書式を利用するが、これは例えば、HTML(HyperText Markup Language)で代用することもできる。一方、著作物画像36は、著作権によって保護されているデジタル画像である。

【0018】CPU26は、メモリ24に記録された顧客画像17を読み出したテンプレート20に合成して、顧客の希望するポストカードを作成する装置である。CPU26はメモリ24、スキャナ14およびHDD32に、それぞれ信号線42、44、30、46によって接続されていて、これらの装置を制御可能である。CPU26はメモリ24上の顧客画像17と、HDD32上のテンプレート20とを読み出す。なお、CPU26は、顧客の注文を受け付けた時期によって読み出すテンプレート20の種類を変化させるカレンダ機能を有していてもよい。例えば年末には年賀状用のテンプレートを読み出し、夏期には暑中見舞い用のテンプレートを読み出すことができる。

【0019】CPU26は、読み出したテンプレート20に顧客画像信号17を合成する。つまり、テンプレート20に顧客画像17を付加し、レイアウト情報40に顧客画像17用のレイアウト情報を追加する作業を行う。さらに、テンプレート20内の文字データ38は、顧客に固有のものに修正する。このようにして、テンプレート20を基本としたポストカードデータ21を作成する。

【0020】このようなポストカードデータ21の合成は、ディスプレイ装置52の操作によって行う。ディスプレイ装置52は、操作者によって操作され、CPU26に対して操作信号48を与えてポストカードデータ21の合成を行うとともに、合成されたポストカードデータ21を表示する装置である。ディスプレイ装置52は、CPU26に信

号線48、50で接続されている。ディスプレイ装置52はタッチパネル方式であり、ディスプレイ装置のタッチパネル54(図2)上の位置情報(触った位置座標)が、そのままディスプレイ装置52上の位置として入力される。なお、位置座標が入力できるものであれば、タッチパネル方式に代えて、マウス、タブレットその他のポインティングデバイスを使用してもよい。

【0021】図7はタッチパネル54の操作画面の一例を示す平面図である。タッチパネル54の右半分には、HDD32から読み出した各種テンプレート20を表示し、そのうち左上のものは仮選択された状態として、輪郭をハイライト表示されている。各テンプレート20の下にはテンプレートの仮選択を変更するための矢印ボタン60および選択完了を入力するためのOKボタン62を表示する。タッチパネルの左半分には、現在仮選択されているテンプレート20に顧客画像17を合成したポストカードデータ21を表示する。

【0022】タッチパネル54の操作により、顧客画像17の移動や切り抜きなどのレイアウトを修正できる。さらに、ポストカードに記載する文字情報38を設定できる。レイアウトの修正は、仮選択されたテンプレート20を基礎とする左側のポストカードデータ21に対して、適宜、枠やポインタを表示して行う。様々な形状の枠で囲まれた領域を切り抜いたり、顧客画像17全体をポインタで移動させることができる。また、少なくともひらがな・カタカナ五十音、および英数文字を含むキーボードと、かな漢字変換キーとをタッチパネル上に表示し、顧客に固有の文字情報を入力可能である。これにより、顧客の名前や連絡先など、ポストカードに記載すべき内容38を修正することができる。また、OKボタン62によって入力の確認および次画面への遷移を行い、NGボタン(図示しない)を設けて入力内容の訂正を可能とし、また、UNDØボタン(図示しない)を設けて前画面へ戻る機能を付加することもできる。さらに、年賀葉書や暑中見舞いで頻繁に使用される単語を表示し、1つのキー操作で当該単語を入力することもできる。

【0023】図3のCPU26はディスプレイ装置52からの上述の操作を操作信号48として受信し、それに従ってポストカードデータ21の合成を行う。合成が完了すると、CPU26は、注文情報68の入力を促す画面をディスプレイ装置52に表示する(図示しない)。注文情報68とは、注文を特定しその内容を表示する情報をいう。注文情報68には、顧客名および顧客の電話番号、受付日、仕上予定日、注文を特定する受付番号、仕上がり品が納品される店名、店コード、店電話番号、注文種別および注文枚数などが含まれる。なお、注文種別とは、ポストカードがプリントされる葉書の種類であり、官製・私製や年賀状・暑中見舞いといった種別に分けられる。注文種別は、何ら顧客が指定しなければ、選択されたテンプレート20に対応するものが自動的に選定されることとなる

が、顧客が自ら選定してもよい。この他、注文情報68には顧客の注文に対応すべく任意の情報を含めてよい。

【0024】顧客が注文情報68を入力すると、C P U26は、図8に示す注文ファイル70を作成し、メモリ24に記録する。注文ファイル70は、ポストカードの内容を含み、実際にポストカードを作成する工場（ラボ）100に送信されるファイルである。テンプレートコード72は、ポストカードデータ21の合成の基本とされたテンプレート20を識別する情報である。テンプレート20やポストカードデータ21そのものを注文ファイル70に含める必要はない。HDD32に記録されているのと同じテンプレート20が、ラボ100にも蓄積されているからである。

【0025】符号化画像73は、顧客画像データ17がC P U26によって圧縮符号化されたものである。圧縮符号化は、例えばJPEG (Joint Photographic coding Experts Group) 方式を使用してよい。顧客画像のレイアウト情報74は、タッチパネル操作によって設定された、顧客画像17のポストカード上のレイアウト情報である。このレイアウト情報74は、ラボ100で受信された時に、ラボ10側に蓄積されたテンプレート20のレイアウト情報40に付加される。顧客文字情報76は、タッチパネル操作によって顧客が入力した、顧客に固有の文字情報である。この文字情報76は、ラボ100側のテンプレート20内の文字情報38と置換される。

【0026】図8から明らかなように、本実施例では、ポストカード全体を画像データとして送信することはしない。必要な部分のみを画像データとし、その他の部分をテキストデータとして、分別して送信する。本実施例では、画像データとして送信する必要があるのは、符号化画像データ73のみである。その他の情報68、72、74、76はすべて、テキストデータとして送信可能であるため、データ伝送効率が高められている。ただし、ポストカード全体を画像データとして送信する方法も採用可能であることは言うまでもない。その場合、図8における注文情報68のみがテキストデータとして送信され、他の情報72、73、74、76を画像データとして送信する。この方法によれば、通信量は増大するものの、テンプレートに限定されない、よりオリジナリティあるポストカードの作成が可能となる。

【0027】注文ファイル70がC P U26によって作成され、メモリ24に記録されると、記録されていた顧客画像17は用済みとなるが、一定期間メモリ24に保持しておく。注文ファイル70の作成や送信に支障が生じた場合に、注文ファイル70の再作成および再送信に利用するためである。注文ファイル70の送信の成功が確認された後は、記録容量を確保するため、顧客画像17はメモリ24から削除してもよい。

【0028】図3を再び参照する。C P U26は、プリンタ16および通信アダプタ80にも出力信号線82、84によって接続されている。顧客がポストカードの仕上がり状態

を了承すると、C P U26は、上述の注文ファイル70を作成する一方、プリンタ16を制御して、ポストカードデータ21を元に、仕上がり見本86のプリントを指示する。仕上がり見本86は、図4に示す顧客用控え88にプリントする。なお店10用の控え89も同様の内容でプリント可能である。顧客用控え88には、仕上がり見本86の他、注文情報68をプリントする。注文情報68のうち、ポストカードが納品される店名は、顧客の便宜上、受付を行った店10と異なった店としてもよい。なお、顧客は原則として注文情報68に含まれる仕上日（納品日）以降に来店して仕上がり品を受け取るが、後述のように、店10から仕上日の連絡を受けて来店することとしてもよい。

【0029】仕上がり見本86は、葉書大の大きさではない。これは、C P U26に、ソフトウェア上の機能として、ポストカードを葉書大の大きさにプリントすることのできないプリントプロテクト機能があるからである。かかる機能を必要とするのは、ポストカードのテンプレート20に著作物36が含まれている場合、これを店頭10でみだりに複製することは著作権侵害となるからである。したがって、顧客用控え88上に、ポストカードより小さいサイズで仕上がり見本86をプリントする範囲でのみ、店頭10でのプリントが可能である。なお、著作権侵害のおそれのないポストカードについては、ラボ100に送信せず、店10でそのまま作成してもよい。その場合は、ポストカード合成装置12に接続されたプリンタ16にポストカードプリント用の印画紙を用意しておき、その場でプリントして官製葉書または私製葉書に貼り付け、顧客に提供すればよい。

【0030】図2の通信アダプタ80は、上記の注文ファイル70を店10から図1に示すラボ100へ転送する装置である。C P U26は、符号化された画像データ73と、テンプレートコード等のテキストデータ68、72、74、76とが一体となった図8に示す注文ファイル70を、通信アダプタ80を介して送信することができる。通信アダプタ80は、図2に示すように、信号線170からD S U (Digital Service Unit) 90を介して、ISDN (Integrated Services Digital Network) 回線92に接続されている。

【0031】このように、店10では、顧客の注文は、ポストカード合成装置12によって1つの注文ファイル70にまとめられ、ISDN回線92を通してダイヤルアップ接続することにより、公衆網を経由して図1のラボ100に送信される。また、インターネットプロバイダに接続し、インターネットを経由してラボ100の注文受信サーバ102にアクセスすることとしてもよい。ダイヤルアップ接続よりインターネットを経由した方がデータ伝送効率が高まる場合があるからである。また、図示はしないが、専用線を通じてラボ100の注文受信サーバ102にアクセスすることとしてもよい。さらに、携帯電話、P H S (Personal Handy-phone System)などの携帯端末機器をポストカード合成装置12に接続し、無線回線を介してサー

バ102にアクセスすることもできる。

【0032】図1は本発明による書札作成システムを構成するラボ100の一例を示す構成図である。ラボ100は遠隔地に散在する複数の店10から、通信回線92、98を通して送られる注文ファイル70を受信し、ポストカードを作成して出荷する施設である。ラボ100は複数設けてよく、それぞれが管轄すべき地域を指定してもよい。

【0033】ラボ100は注文処理部104とポストカード作成部106とに分けられる。注文処理部104は受信した注文ファイル70を受付明細票108としてプリントとともに、注文ファイル70をポストカードデータ21に再合成し、ポストカード作成部106に転送する部署である。ポストカード作成部106は、再合成されたポストカードデータ21を元に、ポストカードを作成する部署である。

【0034】注文処理部104は、通信アダプタ110と、注文受信サーバ102と、受付明細票プリンタ112とを含む。通信アダプタ110は図2のそれと同様に、信号線162からDSU114を介してISDN回線92に接続され、店10からの注文ファイル70を受信する装置である。注文受信サーバ102は、信号線160を介して通信アダプタ110に接続され、通信アダプタ110から注文ファイル70を受信してポストカードデータ21の再合成を行う装置である。注文受信サーバ102はインターネットを通じて店10側から注文ファイル70を受信することも可能である。その場合は、インターネットプロバイダに接続した専用線98またはフレームリレーをラボ100に設置したゲートウェイ116に接続し、LAN(Local Area Network)118を介して注文受信サーバ102にアクセス可能である。注文受信サーバ102は複数の店10からのアクセスを処理するため、ワークステーションを使用するのが好ましい。

【0035】図6は注文受信サーバ102の構成例の機能ブロック図である。CPU120は、主として、店10からの注文ファイル70を受信し、サーバ102内の各ユニットを制御して、ポストカードデータ21の再合成を行う装置である。CPU120は各信号線122、124、126、128を介してメモリ130およびHDD132に接続されている。メモリ130には受信した注文ファイル70を記録とともに、著作物36のプリント回数を計数するカウント情報134を記録する。カウント情報134は、注文ファイル70の注文情報68に含まれる注文枚数をCPU120が認識して加算する。HDD132には図2のそれに含まれているのと同一のテンプレート20が記録されている。これに加えて、外部からのファイル転送要求に対するセキュリティ情報136が記録されている。セキュリティ情報136には、各店10に与えられたユーザ名(店名)およびパスワードが格納されている。

【0036】注文受信サーバ102は、このような構成を有することにより、少なくとも注文ファイル70を受信する機能を有する。したがって、例えばファイル転送機能を有するFTP(File Transfer Protocol)サーバを注

文受信サーバとして利用可能である。CPU120は、外部からファイル転送要求があった場合、当該要求側が入力したユーザ名およびパスワードを認識し、HDD132のセキュリティ情報136と照合し、同一のユーザ情報を発見した場合にのみ、ファイル転送要求を許容する。ファイル転送要求を許容し、注文ファイル70を受信した場合は、CPU120は、通信回線92、98を通じて、「データ着信」の旨を店10に返信する。そして注文ファイル70をメモリ130に記録する。

【0037】メモリ130にはさらに、注文ファイル70の受付番号に対応して、納品日時を記録したスケジュール138を記録する。スケジュール138には、例えば、受注したポストカード140またはその注文ファイル70が置かれている現在の工程と、その工程から起算した平均的な納品までの日時を含めることができる。本実施例では、ポストカード140または注文ファイル70が置かれる工程は、図1に示すように、注文受信サーバ102に注文ファイル70が到達した第1工程102、注文ファイル70が後続のプリントサーバ142に転送された第2工程142、およびプリントの完了したポストカード140が出荷待ちとなっている第3工程143である。

【0038】第1および第2工程102、142に到達した事実については、注文ファイル70を受信し転送するCPU120が、注文ファイル70の処理状態に沿って、スケジュール138の納品日時を書き換える。ポストカード140が搬送経路141を介して第3工程143に到達した事実については、ポストカード140と一体として管理される後述のバーコード144を、これも後述する伝票発行機146に接続されたバーコードリーダ148によって読みとることによって知ることができる。これが注文受信サーバ102にもたらされ、CPU120がスケジュール138を書き換える。

【0039】ポストカード140が第3工程143に到達したことを検出すると同時に、CPU120は、店10に対して、納品日時138を電子メールまたはファックスによって送信する機能を有する。また、店10からの納品日時138の問い合わせがあった場合には、いつでも、予定納品日時を店10に対して回答する。

【0040】注文ファイル70は受信サーバ102のメモリ130に蓄積可能であり、CPU120は、注文ファイル70を、原則として受信した順番に後続の第2工程142に転送することができる。ただし、注文ファイル70に顧客の希望する納品日時が含まれている場合は、それが守られるよう、他の注文ファイルに先んじてその注文を処理することもできる。このようにして、注文受信サーバ102によるスケジュールの一元管理を行う。

【0041】CPU120は、ポストカードデータ21を再合成する時は、注文ファイル70をメモリ130から読み出し、テンプレートコード72に対応するテンプレート20をHDD132から読み出し、これに顧客画像データ73を合

成する。具体的には、圧縮符号化されている顧客画像73を複合化した顧客画像17をテンプレート20に付加し、レイアウト情報40に顧客画像のレイアウト情報74を追加する作業を行う。さらに、テンプレート20内の文字データ38を、顧客に固有の文字データ76に修正する。このようにして再合成されたポストカードデータ21は、図5に示すように、注文情報68とともに、後述の受付明細票108に仕上がり見本86としてプリントされる。

【0042】ポストカードデータ21の再合成には使用されない注文情報68は、注文受信サーバ102によって、ラボ100に固有のラボコードと、ラボ100に固有のロット番号および受付番号を付与される。CPU120は、この後、注文情報68を再合成されたポストカードデータ21とともに、サーバ102に接続された受付明細票プリンタ112に出力する。

【0043】図1の受付明細票プリンタ112は、注文情報68およびポストカードデータ21を受信して、受付明細票108をプリントする装置である。受付明細票は、プリント後、搬送経路109を通ってポストカード作成部106に搬送される。図5は受付明細票の一例を示す平面図である。受付明細票108とは、ポストカード作成部106において、仕上がり品140を入れる納品袋150に貼り付けられ、仕上がり品140と一緒に管理される紙片である。なお、受付明細票108は、納品袋150に貼り付けられる紙片としてではなく、納品袋150に直接プリントされることとしてもよい。その場合、納品袋150が受付明細票プリンタ112のプリント用紙としてセットされる。

【0044】受付明細票108において、注文情報68は、文字情報としてそのままプリントされる。ポストカードデータ21は、仕上がり見本86としてプリントされる。受付明細票108には、注文情報68および仕上がり見本86に加えて、バーコード144もプリントされる。このバーコード144は、注文情報68の一部である店コード、店の受付番号およびラボコードを表示する。バーコード144の下には、さらに、ラボ100で付与したロット番号およびラボ100の受付番号がプリントされる。

【0045】再び図1を参照する。ポストカード作成部106は、プリントサーバ142と、ディジタルプリンタ152と、伝票発行機146とを含む。プリントサーバ142は、受信サーバ102からLAN118を介して、ポストカードデータ21および注文情報68を受信し、ポストカード140をディジタルプリンタ152によってプリントする装置である。プリントサーバ142として、パーソナルコンピュータを用いてよい。

【0046】プリントサーバ142に接続されたディジタルプリンタ152は、プリントサーバ142からの指示信号166により、ポストカード140のプリントを行う。プリンタ152にはポストカードプリント用の印画紙がプリント用紙として備えられている。ポストカードの内容がプリントされた印画紙は、官製葉書または私製葉書の裏面

に貼り付けられ、ポストカードとして完成する。なお、これらの葉書をプリント用紙とし、直接ポストカードの内容をプリントしてもよい。プリンタ152は、プリントサーバ142から得られた注文情報68の注文種別に基づき、使用すべきプリント用紙、例えば官製・私製や年賀状・暑中見舞い、をロットごとに選定し、注文された枚数のプリントを行う。

【0047】伝票発行機146は、受信サーバ102からLAN118を介して注文情報68を受信し、これに基づいて請求伝票154を作成する装置である。請求伝票154を作成する時は、発行機146は、それに接続されたバーコードリーダ148で受付明細票108のバーコード144を読み取る。これにより読み取った受付番号と、LAN118を介して受信した注文情報68の受付番号とを照合し、一致するものの注文枚数などの情報から、請求伝票154を作成する。このバーコード144の読み取りは、仕上がり品140が出荷待ち状態となった第3工程143で行われ、CPU120に注文情報68が伝達される。これにより、CPU120は、仕上がり品140の納品日時を店10に対して電子メールまたはファックスすることができる。一方、作成された請求伝票154は、搬送経路155を通って、第3工程143直後の納品袋150に張り付けられる。そして、出荷の直前に、納品袋150に対して、再度バーコード144による読み取りを行う。これにより、CPU120に注文情報68が再び伝達され、仕上がり品がすでにラボから出荷されたという情報を、店10からの問い合わせに対し回答することができる。

【0048】以上の構成を有する書札作成システムにおいて、ポストカードを作成する工程を説明する。図2のポストカード合成装置12は、タッチパネルディスプレイ54に操作画面を表示し、まず、顧客画像データ17の入力を指示する。図2に示すように、ポストカード合成装置12は、顧客が持参した記録媒体18から顧客画像データ17を読み込む。あるいは顧客の持参した写真や絵などの原稿15をイメージスキャナ14で読み込み、ディジタル画像信号17に変換する。これらのディジタル画像信号は、顧客画像17として、図3のポストカード合成装置12のメモリ24に記録する。画像が記録媒体18から提供された場合は媒体18からメモリ24に直接記録し、スキャナ14から提供された場合は、CPU26を介してメモリ24に記録する。

【0049】CPU26は顧客画像データ17が得られると、HDD32にアクセスして各種テンプレート20を読み出し、顧客画像17をいずれかのテンプレート20に合成し、図7に示すように、ポストカードデータ21をディスプレイ54に表示する。

【0050】タッチパネル操作により、いずれかのテンプレート20を基礎とし、顧客画像データ17のレイアウト、文字情報38の修正および注文情報68の入力が行われ、これらの情報がCPU26に伝えられる。CPU26

は、ポストカードデータ21の合成とともに、図8の注文ファイル70を作成する。図8に示すように、注文ファイル70には、顧客画像データ17が圧縮符号化された符号化画像73が格納される。注文ファイル70は、完成後、メモリ70に記録する。この時、記憶容量の確保のため、顧客画像17は、一定期間保持された後、メモリ24から削除してもよい。

【0051】CPU26は、上述の注文ファイル70を作成する一方、プリンタ16を制御して、ポストカードデータ21を元に、図4に示す仕上がり見本86を含む顧客用控え88および店10用の控え89（顧客用控えと同様の内容）をプリントする。顧客用控え88は顧客に渡し、店用控え89は店10が保管する。CPU26は、通信アダプタ80を制御し、ラボ100の注文受信サーバ102にダイヤルアップ接続して、注文ファイル70を送信する。

【0052】図6を参照して動作説明を続行する。店10側から注文受信サーバ102にダイヤルアップ接続が行われ、店10に固有のユーザ名およびパスワードが信号線160を介して入力される。CPU120は、HDD132を参照してセキュリティ情報136との照合を行い、ファイル転送要求の可否を決定する。その結果、注文ファイル70を受信すると、「データ着信」の旨を店10側のポストカード合成装置12に信号線160を介して返信する。CPU120は注文ファイル70に含まれているテンプレートコード72に対応するテンプレート20をHDD132から読み出す。また、圧縮符号化されていた顧客画像データ73を複合化し、顧客に固有の文字情報76とともに、読み出したテンプレート20に合成する。CPU120は、再合成された新しいポストカードデータ21および注文情報68を、LAN118を通じて、図1のプリントサーバ142に転送する。これらのデータは、受付明細票プリンタ112にも出力し、受付明細票108をプリントする。

【0053】図1を参照されたい。プリントされた受付明細票108は、搬送経路109を通ってポストカード作成部106に搬送され、完成品140を入れる納品袋150に入手によって貼り付けられ、さらに搬送経路151を通ってポストカード140の作成を待つ状態に置かれる。一方、ポストカードデータ21および注文情報68を受信したプリントサーバ142は、注文情報68に含まれた注文枚数分のポストカード140をプリントする。プリントされたポストカード140は作業者により前記納品袋150に入れる。

【0054】納品袋150には、図5に示す仕上がり見本86を含む受付明細票108が貼られているため、作業者は、間違えることなく対応する納品袋150にポストカード140を入れることができる。続いて伝票発行機146に接続されたバーコードリーダ148によって受付明細票108のバーコード144を読み取り、請求伝票154を作成して前記納品袋150に貼り付ける。このバーコード144の読み取りにより、注文受信サーバ102は電子メールまたはファックスによって、店10に対し、ポストカード140

の納品日時を知らせる。また出荷直前にもバーコードリーダ148による読み取りを行い、ポストカードが出荷された旨を店10に対して回答可能とする。ポストカード140は、納品袋150に貼られた受付明細票108に従って、全国の店10に対して搬送ルート168に出荷される。顧客は注文時に知らされていた納品日時、または店10からの連絡により知った納品日時以降に来店してポストカード140を受け取る。

【0055】以上、本発明による書札作成システムをポストカード作成に関して説明した。しかし、本発明はポストカードの作成のみに限定されるものではない。例えば名刺などの書札作成にも適用可能である。その他、作成する書札のテンプレートを用意することにより、絵、写真、文字などの情報が含まれた、あらゆる種類の書札の作成に適用可能である。

【0056】

【発明の効果】このように本発明によれば、顧客は注文時に仕上がり見本を確認することができ、満足のゆく注文ができるだけでなく、宛名などの書札の内容の誤りを注文時に修正することも可能であるため、利便性が格段に向上する。また、店とラボとの間を通信回線で接続し、著作権との関係上ラボで作成する必要がある書札の納品を迅速化できる。ラボでは納品袋に受付明細票を貼り付けるため、書札の包装作業および請求伝票の発行が容易となり、これも納品の迅速化をもたらす。さらに、顧客画像データとその他のテキストデータとを分別して送信することにより、データ伝送効率が向上する。その上、注文を一元管理しているため、注文の処理状況を容易に確認できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による書札作成システムを構成するラボの一例を示す構成図である。

【図2】本発明による書札作成システムを顧客に提供する店の構成例を示す図である。

【図3】ポストカード合成装置の実施例の機能ブロック図である。

【図4】顧客用控えの一例を示す平面図である。

【図5】受付明細票の一例を示す平面図である。

【図6】注文受信サーバの構成例の機能ブロック図である。

【図7】タッチパネルの操作画面の一例を示す平面図である。

【図8】注文ファイルの構成図である。

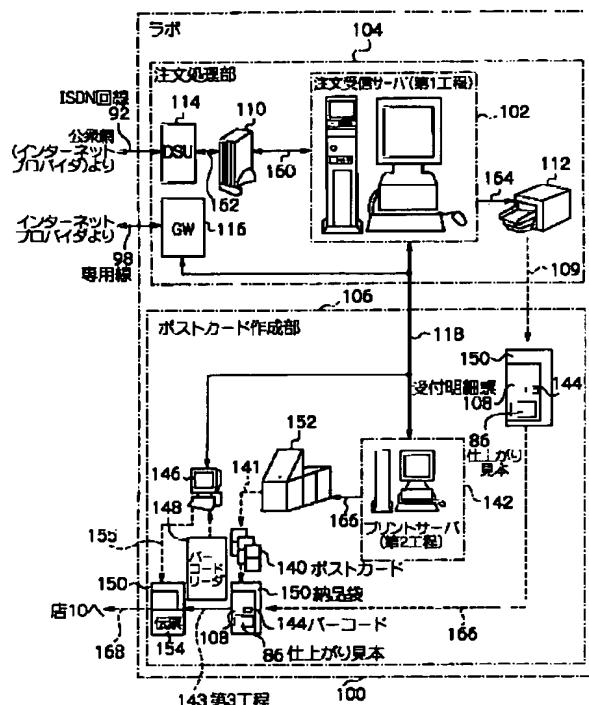
【符号の説明】

- 10 店
- 12 ポストカード合成装置
- 20 テンプレート
- 21 ポストカードデータ
- 54 タッチパネル
- 86 仕上がり見本

100 ラボ
104 注文受信サーバ
108 受付明細票
112 受付明細票プリンタ
140 ポストカード

142 プリントサーバ
144 バーコード
148 バーコードリーダ
150 納品袋

【図1】



(10)月2002-10061(P2002-10061A)

【図4】

お客様名	富士 太郎 様
電話番号	03(XXXX)XXXX
受付日	2000/3/24
仕上日	2000/3/31
受付No	90024
店名	メティアラボ AB-YZ東京
店コード	28861
店電話番号	03XXXXXXXX
ご注文種別	官製一般捺書
ご注文枚数	10枚
ご連絡欄	

お客様控
受付No 90024

17 ← 頭客画像
34 ← あけましておめでとうございます
36 ← 善作物
76 ←
86 ← <ご注文の説明>
~68

【図5】

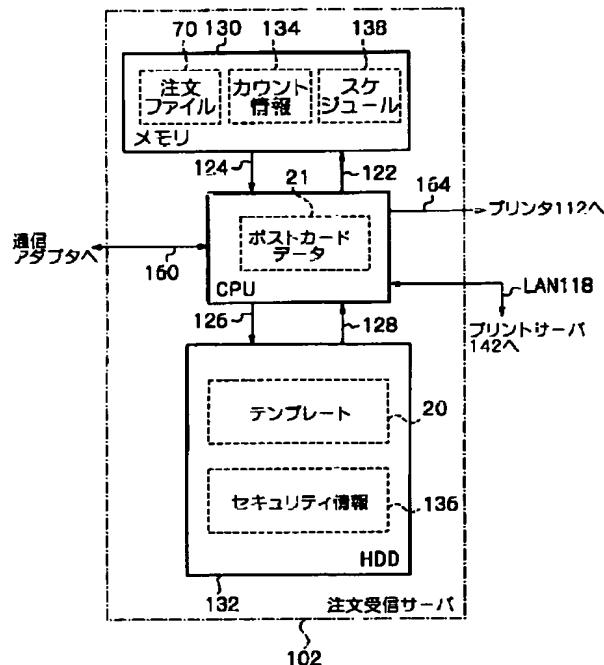
受付明細票

お客様名 : 富士 太郎 様
電話 : 03XXXXXXXX
受付日 : 2000/03/24 受付No : 90024
店名 : メティアラボ AB-YZ東京
店電話 : 03XXXXXXXX 店コード : 28861
注文種別: 官製一般 注文枚数 : 10枚
現像所使用機 1228861900143 144 ←
ロット番号 : D00039 受付番号: 000069

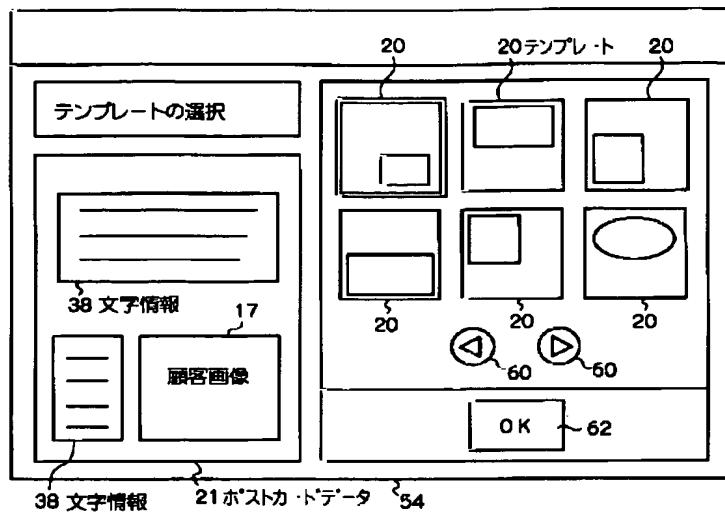
86 ← 76 ←
76 ← 善作物 ←
34 ← 頭客画像 ← 17

~108

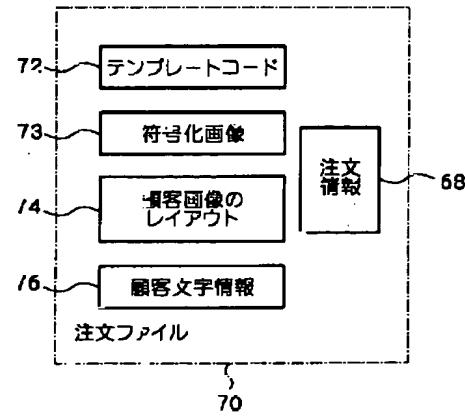
【図6】



【図7】



【図8】



フロントページの続き

F ターム(参考) 5B049 BB00 CC05 CC08 CC21 CC35
 DD01 EE01 EE07 FF02 FF03
 FF04 GG04 GG07
 5C076 AA16 BA02 BA03 BA05 BA06
 CA02